



創立五十周年 1967-2017

# 青森総合卸センターニュース



編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323  
URL <http://www.tonyamachi.com> E-mail [info@tonyamachi.com](mailto:info@tonyamachi.com) 発行/2018(平成30)年1月1日



新年あけましておめでとうございます。



理事長

西 秀 記

昨年は当組合にとって節目の年となりました。10月23日に組合創立50周年を迎え、組合員、来賓、関係者のご協力により、記念式典と祝賀パーティーを盛大に開催することができました。

式典では、次の50年を見据え、組合事業を新たに再定義した「経済的価値創出事業」「社会的価値創出事業」「文化的価値創出事業」の3つの事業セグメントについて紹介しました。これからの組合は、この3つの価値創出事業のトライアングルにより卸団地のエリアマネジメントを行い、卸業の物流拠点を中核とし、小売・サービス業や文化施設も備えた青森市の第二副都心となる「ビジネスパーク」を目指します。

50周年記念事業では組合創立以来初となる記念出資配当を行いました。加えて、ドローンによる空撮や記念誌発行、記念広告掲載やピアノチャリティコンサート開催など多岐にわたり実施し、問屋町を広く周知することで、「問屋町ブランド」確立を図りました。

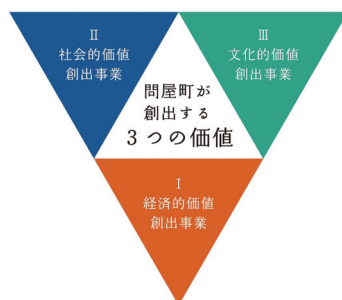
また、団地資産の有効活用と管理を担う「経済的価値創出事業」では、最優先課題である組合員跡地問題に果敢に取り組み、跡地の建物2件を解体し広大な更地にするなど卸団地の再整備を進め、新たに4社が加入となりました。

「社会的価値創出事業」では、健康事業を積極的に推進し、県内では初となる、国、県、市より健康経営法人の認定も受けました。また、安心・安全事業では、防犯カメラの増設や問屋町防犯パトロール隊を結成するなど、働きやすい問屋町の実現に向け活動しました。

「文化的価値創出事業」では、問屋町ビジネススクールや団地内交流事業など、これまで以上に内容を充実させて実施し、多くの方に参加いただきました。中でも、フラワーアレンジメント教室やボルダリング教室がNHKの取材を受けるなど、活発な活動が注目を浴びました。

さて今年の間屋町は、少子高齢化が進む中、組合員が雇用を確保できるような女性や高齢者も働きやすい環境づくりに取り組めます。3月にはバス待合所の再整備を行うほか、街路灯の増設やLED化、枝線道路整備の早期実現を目指します。また、健康事業では青森市南部の健康づくりの拠点となるべく、集団健康診断の検査項目の増加や歯科衛生士による歯磨き指導など、内容をより充実させます。

新しい年が、戦争、紛争、自然災害が少なく組合員皆様の更なる発展につながるよう心からお祈りいたします。





**問屋町ビジネススクール  
2018年度カリキュラム  
など承認**  
第7回理事会

12月14日(木)に第7回理事会が開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

主な案件審議は次のとおり。  
案件一、問屋町ビジネススクール運営委員会からの意見について

2018年度カリキュラムなどが承認された。  
案件二、既存組合員の移転及び土地交換について  
案件三、2017年度第8回理事会の日程等について

**忘年会で1年の締めくくり**

問屋町支店長・所長連絡会(青友会)では忘年会を兼ねた第24回親睦交流会を11月28日(火)に開催。同会会員ほか30名が参加した。

今回は、日本酒「稲村屋文四郎」や焼酎「六趣スペシヤル」といった希少な県産酒を特別に用意。参加者は、普段なかなか味わえない逸品とあって、3杯、4杯とハイペースで美酒を堪能した。

また、途中、アトラクションとして「お肉3品」と「お米3品」の食べ比べゲームを実施。お肉は国産牛・霜降り加工牛・豚肉の3品、お米は晴天の霹靂・つがるロマン・ムツニシキの県産米3品を準備。参加者は目隠ししながらの挑戦となり、正解を予想す



青友会 忘年会



激辛おかきに悶絶(同友会)

**口腔ケアについてなど学ぶ  
組合員昼食会**

12月12日(火)に問屋町会館で組合員昼食会が開催され、近年最多となる57名が参加した。

はじめに、青森県口腔保健支援センターの金澤副参事が「歯と口の健康づくりについて」をテーマに講話した。

金澤副参事は「50歳を過ぎると急速に歯を失うことが多いので、これまで以上に歯の健康に注意を払わなければならぬ。健康な歯を維持するには、日々のセルフケアはもろろんのこと、定期的に歯科医院に通院し、プロフエッ

シヨナルケアを受けることも必要」と話した。

続いて、組合員のコクサイ通信特機(株)が、光電話、インターネット回線、プロバイダ、安心サポートをオールインワンで提供するサービス「トーク&ネット光」について説明した。

次に、組合員の(株)西衛器製作所が、同社の取り扱うタニタの体組成計や活動量計などを紹介。タニタでは、実際に同社の全社員が活動量計を身につけて体組成の測定を続けたところ、1人当たりの年間医療費が12%削減。「機器の導入コストはかかるが医療費は減らせるので、会社にはメ



組合員昼食会

**業務報告**

... 主要事項 ...

- 12月
  - 1日▽国内経済視察会 (11月30日~12月3日)
  - ▽みち銀グリーンクラブ 総会・忘年会
  - 5日▽第2回献血 青森中金会役員会・講演会・懇親会
  - 6日▽問屋町経営同友会第3回役員会
  - ▽第2回税務研修会
  - ▽第1回問屋町ビジネススクール運営委員会
  - 8日▽商団連東北ブロック会議 (9日)
  - ▽問屋町経営同友会忘年会
  - 11日▽あおもりコンピュータ・カレッジ運営委員会
  - 12日▽組合員昼食会

**問屋町たんしん**

▽2018年問屋町新年合同厄払い  
①日時  
2018年2月5日(月)  
午後零時15分~1時  
②会場  
問屋町会館  
③定員  
30名  
④参加料  
2,000円  
(記念会印・お札・お守り含む)  
▽第5回問屋町若手従業員親睦交流会  
①日時  
2018年2月16日(金)  
午後7時~9時  
②会場  
ホテル青森  
③定員  
40名  
④参加料  
2,100円  
お申込み・お問い合わせは、  
卸センター業務部(☎73814711)まで

▽青森商工会議所会員交流大会  
14日▽青森社会保険委員会役員会  
▽第7回理事会  
▽フラワーアレンジメント教室  
15日▽金融審査会  
▽東北卸商業団地連絡協議会幹事会(16日)  
16日▽簡易郵便局東青ブロック研修会・忘年会  
18日▽大星神社御幣立  
22日▽商団連事務局次世代の会  
25日▽国内経済視察会反省会

**問屋町  
ビジネススクール**

- 5日▽給与実務の基礎の基礎 (税金編) ①
- 7日▽給与実務の基礎の基礎 (税金編) ②

**謹賀新年**

旧年中は格別のお引き立てをたまわり厚くお礼申しあげます。本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

**青森問屋町配送(株)**

代表取締役 西 秀記  
常務取締役 赤坂 晃

**北日本流通ヴァン(株)**

代表取締役 橋本 昭一  
取締役副社長 西 秀記  
専務取締役 藤本 和夫  
常務取締役 森山 慶一

# 新年のメッセージ

(協青森総合卸センター事務局職員)



専務理事  
藤本和夫

昨年の組合創立50周年事業では、組合員の皆様をはじめ関係各位の御協力により、各事業とも滞りなく終えることができ、本当にありがとうございます。

さて今年ですが、何と言っても、大きな臭くなっている国際情勢が収まることを第一義に希求します。組合に関しては、「50周年宣言」の実現化を計ることをミッションとします。

最後に私的には、老前整理へ挑戦します。



理事・事務局長  
赤坂晃  
青森問屋町配送(株)専務取締役

今年はいよいよ還暦、卸団地に足を踏み入れてから41年が立ちます。昨年は体の衰えからか、食あたりを頻繁に患い、老いを感じてしまいました。が、還暦を迎えるにあたり、肉体改造に挑戦したいと思います。(ダイエットプログラム6kg減)

本年は、災害や戦争が少なくなくなることを願い、組合員皆様のご発展を心からお祈りいたします。



総務部長  
張山歌子

昨年は組合創立50周年。記念事業を行うにあたり、沢山の方々に世話になりました。ありがとうございます。

今年、ん・・・？少し力を抜いて行こうかと思えます。ゴルフでも力んでは、ボールが飛ばないように仕事も少し「脱力」を心掛けてみようと思えます。



業務部長  
小田切勇治

創立50周年記念事業を無事に終えられてほっと一安心。あわせてメディアにもたくさん出た一年でした。

新年は、少し充電しながら、どうしてもあなたに頼みたい！と言われるような人を目指します。



業務課長  
西田一実

昨年は組合創立50周年の節目というところで、これまでの50年を振り返る機会が多々あり、先達の方々がどれだけの思いで問屋町を造り上げてきたのか痛感させられ

ました。

私も入社から早10年が経過し、これからの10年は自分も何かしかりとした痕跡を残せるよう、これまで以上に問屋町発展に向け奔走します。



総務課長代理  
成田賀子

ここ数年、資格取得のため毎年試験勉強しています。

今年も新しいことに挑戦すること、無農薬家庭菜園を継続すること、ストレスメタボにサヨナラすることを目標にワンダフルな一年にします。



総務部主査  
五十嵐敦

今年、は戌年で、早いもので三度目の年男を迎えました。公私ともに「ワン」ランク上を目指して、今年も一年頑張りたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願いたします！



業務部主査  
佐々木秀家

健康事業の担当者として食生活も気をつけようと思いましたが、問屋町ストアで誘惑に負け間食をしてしまいました。

おいしいパンに特価おかし・・・来年からがんばります。



業務部主事  
春山心仁

昨年は青森問屋町経営同友会の担当を務めることとなり、経営者を中心とした方々との交流の中で、様々な刺激をいただいた1年だったと思えます。

新年も1つ1つの体験を通して成長できるよう頑張ります。



総務部主査  
田中静香

昨年は組合にとって節目の年でしたが、年女の私にとって今年が節目の年です。

「健康」は自分にとって当たり前のものですが、最近否応にも意識させられることが多くなってきました。

今年「健康」と向き合う1年にしていきたいと思えます。



総務部主査  
鎌田綾野

20歳で入社し、今年が10年目になるということ。20代卒業の年です。嫌だという人が多い中、私は20代とは違う楽しい世界があるんだろうなという気持ちでワクワクしています。

その反面、30歳から体のいたるところに変化があるとよく言われるので、気を付けたいと思えます。



郵便局窓口担当  
鶴谷優子

昨年は、真夏に高熱を出したり

よく風邪をひいたり体力不足を実感した一年でした。

今年、昨年あまり行けなかった山登りにたくさん行き、体力を付けて頑張りたいと思えます。おすすめの山があったら教えてください。



問屋町ストアパート  
成田あすか

昨年はプライベートでも1つの節目を迎えた年でしたが、なんとか仕事も私事も乗り切ることができました。

今年1年は「奮闘」と「休息」を4対6の割合になるように自身を労わって頑張ろうと思えます。



問屋町ストアパート  
外崎由佳

昨年はたくさんのおお客様にご来店いただきありがとうございます。

今年も特価商品や新鮮野菜等と共に皆様をお待ちしております。



青森問屋町配送(株)業務部長  
佐藤博善

昨年は、組合員の皆様をはじめ多くの方々に大変お世話になりました。誠にありがとうございます。

青森問屋町配送社員一同が思っている事ですが、忙しい日々を過ごすことが出来、もう1年経つのか？と思うくらい、本当に早い1年間でした。

本年も社員全員で無事故・無違反を目標にがんばっていきます。



# 2018 (平成30) 年

## 「50周年宣言」

### 3つの価値を創出し、ビジネスパークを目指す

#### 50周年宣言 組合運営のビジョンを示す

当組合は、2017年10月23日に組合創立50周年を迎えた。組合員や関係機関等が多数参列し盛大に執り行われた記念式典において、西理事長が式辞として、当組合の今後の組合運営ビジョンとなる「50周年宣言」を、映像やスライドを使用して行った。

50周年宣言では、初めに組合設立から現在までの50年を、青森市を俯瞰した地図で振り返った。当組合は1967年10月に設立し、土地の造成工事や建物の建築を経て、その2年後から問屋町での営業がスタートした。5年後には、隣接する青森市中央卸売市場も完成し、青森市における流通機能の集約化が加速。1984年の第二問屋町造成工事完了により、15万坪を誇る青森県最大の流通拠点が完成した。



1975年問屋町空撮 (国土地理院ウェブサイトより)

その後も問屋町周辺のインフラ整備は着々と進み、1985年には中央大橋開通、1987年には新青森空港が開港し、青森市南部の田畑も商業施設や住宅地へとその姿を変えていった。50年の歴史の中でも大きな転機となったのが、2003年の青森中央インターチェンジ開通。高速道路のインターチェンジが問屋町に接続したことで、物流機能が飛躍的に向上した。このように青森市の南部地区は当組合の進出を契機に開発が進み、現在では交通インフラが高次元で交わる稀有な流通拠点となっている。

次に、問屋町が今後の50年間も卸団地として存続し続けるため、卸団地をエリアマネジメントとするための3つの事業セグメントについて説明。その3つは、「経済的価値創出事業」「社会的価値創出事業」「文化的価値創出事業」(詳細は後述)。

当組合は、この3つの価値創出事業のトライアングルにより卸団地のエリアマネジメントを行い、卸業の物流拠点を中核とし、小売・サービス業や文化施設も備えた青森市の第二副都心ともなる「ビジネスパーク」を目指す。

#### 経済的価値創出事業 基幹事業である高度化事業を推進

「経済的価値創出事業」とは、卸団地の造成から施設建築までをサポートし、組合の存立基盤ともいえる高度化事業をはじめ、共同物流事業や共同駐車場等の収益事業のことであり、団地資産の有効活用と管理を担う、組合を運営するうえで土台となる事業である。

特に高度化事業は、組合創立50年とともに顕在化してきた施設の高齢化問題に対応するための重要事業。中小企業にとって長期20年固定金利で資金調達できる高度化資金は、施設の新築や再整備を行うにあたって強い味方となる。利用には各種要件もあるため、組合員への周知を行い積極的な活用を促したい。

また、共同倉庫や共同駐車場等は近年高い稼働率をキープしており、引き続き、組合員ニーズを迅速に察知し、的確にサービスを提供できるよう努める。

#### 社会的価値創出事業 職域のトランナートとして健康増進

「社会的価値創出事業」とは、従来、環境事業などの括りとされてきたもので、ごみ収集やリ

サイクル回収事業、除排雪事業、防犯活動などの安心・安全な街づくり事業、交通安全対策事業、近年注目を集めている健康事業など、企業の社会的責任に因應するために取り組む必要がある事業セグメントである。共同化のメリットを享受しやすいセグメントでもあり、事業の多様さが組合の存在価値を高めることにもつながる。

中でも、近年注目度が高まっているのが健康事業。短命県・短命市を返上するため、当組合は2014年度からいち早く健康事業に取り組み、昨年には経済産業省、青森県、青森市の3つから健康事業所として認定された。今後は、組合員が1社でも多く健康事業所として認定されるように関係機関と連携しながら後押ししていく。

また、問屋町大通りに設置した防犯カメラ等を活用して安心・安全な街づくりを行うとともに、問屋町内交通死亡事故ゼロ8千日達成(2019年9月22日)を目指して、交通安全協会問屋町支部と協力して交通安全にも取り組んでいく。



青色防犯パトロールも開始

#### 文化的価値創出事業 人づくりや景観で街に元気と色どりを

「文化的価値創出事業」とは、「C I (Corporate Identity)」活動を中心に問屋町の新しい街づくりの起点となった景観事業や人づくりを支援する問屋町ビジネススクール事業、各種の交流事業やレクリエーション事業、隣接する大星神社など、人々の賑わいと多様な価値を色づける事業セグメントである。

問屋町ビジネススクールは、2011年10月の開校から丸6年を経過し、青森市における中小企業の人づくりの場として定着している。新年度もカリキュラムのブラッシュアップを図り、成果が出る会議の進め方や定着率を上げる部下の指導法などの新規講座も開催していく。

景観事業では、50周年記念事業として問屋町大通りに配置したフラワーボックスが好評だったことから、設置個数も増やし、継続して実施していく。



大通りを彩るフラワーボックス